

## 日本建築史講座

日本には現在 25 件の世界遺産があります。文化遺産が 20 件、自然遺産が 5 件。文化遺産は、蓄積された歴史文化の総体ですが、その主要な部分を歴史的建築が占めています。文化遺産として最初に登録されたのが 1993 年の「法隆寺地域の仏教建造物」と「姫路城」です。

法隆寺金堂の前に立ち、「世界最古の木造建築です」と説明をしたとき、「それは何時の建築ですか」と質問されたら、どのように答えますか。「607 年に聖徳太子が作ったお寺です」と答えたら「その程度のことはガイドブックに書いてある」と言われてしまいます。実は、法隆寺金堂の建築年代を説明するのは、とても難しいことなのです。

『日本書紀』には、「法隆寺は 670 年に雷火で焼失した」とあります。このため、現存する法隆寺金堂は、607 年に聖徳太子が建立したままなのか、670 年の雷火焼失後の再建なのか、明治・大正から昭和にかけて歴史学・美術史学・建築史学を巻き込む大論争が繰り広げられました。「法隆寺再建非再建論争」です。1939 年に若草伽藍跡が発掘され、火を受けた礎石も見つかりました。それが聖徳太子創建の法隆寺であり、法隆寺は再建されたというのがひとまずの結論です。では、現在の法隆寺は、670 年より後、何時再建された建築なのでしょうか。年輪年代学など研究方法の開発があり、新たな見解が次々と提示されています。飛鳥文化の典型である法隆寺ですが、建築の建立年代は白鳳文化の時代です。また、著名な哲学者である梅原猛は、現在の法隆寺は蘇我氏によって殺された聖徳太子一族の怨霊を閉じ込めるために建設されたと言う、興味深い学説を提起しています（『隠された十字架』）。

白鳳文化の象徴である薬師寺東塔も、天平文化の時代に藤原京から平城京へ場所を移して再建されました。

天平文化の代表である東大寺ですが、当時の建築は正倉院・転害門などごくわずかしが残っていません。南大門は鎌倉時代の再建、大仏殿は江戸時代の再建です。

このように歴史的建築について、歴史・宗教・文化・技術などの背景を踏まえて、正確に説明できれば、ガイドの信頼性は格段に向上するはずです。

「日本建築史講座」では、世界文化遺産に登録されている建築を中心に、ひと味違った魅力的なツアーが組めるよう丁寧に説明します。

| 回   | 月 日   | 題 目  | 講 義 内 容  |
|-----|-------|--|--|
| 第1回 | 5月12日 | <b>仏教の伝来と仏教伽藍</b><br><br><b>法隆寺の建築</b>                               | 仏教建築の誕生、サンガラーマ（僧伽藍）、ネパールの仏教僧院と保存修復、仏法僧<br>渡来人と新たな建築技術、飛鳥建築、法隆寺は何時建てられたか、法隆寺西院伽藍（金堂・五重塔）、東院伽藍（夢殿・伝法堂）   |
| 第2回 | 5月19日 | <b>鎮護国家の仏教建築</b><br><br><b>密教建築の成立と山岳仏教</b><br><br><b>末法思想と浄土教建築</b> | 藤原京（橿原市など）と薬師寺、白鳳建築<br>平城京と東大寺、全国の総国分寺と聖武天皇、平城宮跡、鑑真と唐招提寺<br>平安京遷都、天台宗（最澄・比叡山延暦寺）と真言宗（空海・高野山金剛峯寺）<br>礼堂の登場、多宝塔、三仏寺投入堂（鳥取三朝）<br>藤原氏の栄華、平等院鳳凰堂、中尊寺金色堂・毛越寺庭園、白水阿弥陀堂（福島いわき） |
| 第3回 | 6月2日  | <b>鎌倉新仏教と大仏(天竺)様の建築</b><br><br><b>禅宗(唐)様の建築</b>                      | 南都焼討、俊乗房重源と陳和卿、源頼朝と周防の木材、東大寺大仏殿・南大門・法華堂、浄土寺浄土堂（兵庫小野）、中国建築の地方性と渡来経路<br>臨済宗（栄西）と曹洞宗（道元）、室町幕府と建築様式の均質化、東福寺、南禅寺、善福院釈迦堂（和歌山）、正福寺仏殿（東村山）、清白寺仏殿（山梨）、瑞龍寺（富山高岡）                 |
| 第4回 | 6月16日 | <b>和様の建築</b><br><br><b>金堂から本堂へ</b>                                   | 奈良の和様と京の和様、興福寺北円堂・三重塔、十輪院本堂、大報恩寺本堂<br>湖東三山（西明寺・金剛輪寺）、  |

|     |       |   |  |
|-----|-------|---|--|
|     |       | <b>設計技術の確立</b>                                | 長寿寺（滋賀）、大善寺（山梨勝沼）<br>日本建築の美しさの源（枝割と六枝掛、柱の隅伸び）  |
| 第5回 | 6月30日 | <b>安土城と全国の天守城と御殿</b>                          | 安土城と信長の先駆性、現存する12天守（姫路城・彦根城・松本城・犬山城）<br>江戸城と大工（中井と甲良）<br>二条城二の丸御殿、江戸城本丸御殿と松の廊下、徳川御三家の屋敷と甲良家、小石川後楽園、佐賀城本丸御殿の復原  |
| 第6回 | 7月14日 | <b>神社建築の歴史<br/>東照宮と近世の寺社建築<br/>左甚五郎は実在したか</b> | 伊勢神宮と式年造替、出雲大社と巨大建築の復原、仁科神明宮（長野大町）<br>東照宮の魅力再発見、大工中井正清と甲良宗広、日光東照宮、久能山東照宮、上野東照宮<br>清水寺本堂、善光寺本堂<br>300年生きた甚五郎と庶民の夢、歎喜院聖天堂（埼玉熊谷）  |
| 第7回 | 7月28日 | <b>住まいの歴史<br/>民家と伝統的町並み<br/>近代和風建築の到達点</b>    | 竪穴住居と高床住居、家屋文鏡の建築、法隆寺東院伝法堂、寝殿造、武士の館の復原、書院造（慈照寺東求堂同仁齋）、近世書院造、数寄屋造と桂離宮、三溪園臨春閣・聴秋閣（横浜）、茶室<br>千年家箱木家（神戸）、今西家（奈良今井町）、旧笹川家（新潟味方）、旧粕谷家（東京板橋）、白川郷、伊根（京都）、萩、日本民家集落博物館（豊中）、川崎市立日本民家園<br>吉島家（高山）、遠山記念館（埼玉川島）、日向別邸（熱海） |
| 第8回 | 8月25日 | <b>長崎と西欧・中国建築</b>                             | オランダ商館と出島の復原、靴とスリッパ、黄檗宗・崇福寺（長  |

|      |       |   |  |
|------|-------|---|--|
|      |       | <b>沖縄建築の独自性</b>                                   | 崎)・万福寺(宇治)、儒教の建築・多久聖廟(佐賀)・湯島聖堂、足利学校の復原<br>首里城の復原と火災、玉陵、竹富島の民家  |
| 第9回  | 9月8日  | <b>明治維新と洋風建築</b><br><br><b>戦後建築と<br/>ル・コルビュジエ</b> | ジョサイア・コンドルと辰野金吾(日本銀行・東京駅)、片山東熊(迎賓館・東博表慶館)、妻木頼黄(横浜正金銀行)、伊東忠太(築地本願寺・震災祈念堂)、フランクロイド・ライト(帝国ホテル・自由学園明日館)<br>前川國男・坂倉準三・吉坂隆正、国立西洋美術館・東京文化会館 |
| 第10回 | 9月22日 | <b>日本の近現代建築</b><br><br><b>現代建築の魅力</b>             | モダニズムの建築、丹下健三と広島平和記念資料館、オリンピックと大阪万博、村野藤吾、メタポリズムグループ<br>ポストモダニズムの建築、象設計集団と沖縄、生き続けるモダニズム、槇文彦・谷口吉生・安藤忠雄                                 |